

## 基礎病態・社会医学演習

責任者・コーディネーター	分子医化学分野 古山 和道 教授				
担当講座・学科（分野）	分子医化学分野、病理診断学講座、人体発生学分野、放射線医学講座、情報伝達医学分野、感染症学・免疫学分野、衛生学公衆衛生学講座、医療開発研究部門、機能病態学分野				
担当教員	古山 和道 教授、村木 靖 教授、佐藤 孝 教授、柳川 直樹 教授、木村 英二 准教授、刑部 光正 特任准教授、吉野 直人 特任准教授、阿保 亜紀子 講師、田鎖 愛理 講師、鈴木 智大 講師、ハサン アリフ ウル 講師、杉本 亮 特任講師、中川 涼太 助教				
対象学年	3	区分・時間数	講義	0コマ	0.0時間
期間	前期		演習	14コマ	21.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

### ・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。そのためには、生命科学や衛生環境を含む基礎医学と各種疾病の病因、病態に関する知識を統合する能力が要求される。本演習では、2学年で学んだ基礎医学の知識と3学年前期で学んだ疾病の病因・病態生理、診断に関する基盤知識を統合・整理する能力を演習形式で涵養する。

### ・教育成果（アウトカム）

診断・治療の実践に必要な、基礎医学（基礎医学・生命科学）と疾病の病因・病態に関する基盤知識を統合して、病態生理を理解し問題を解決した結果を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 4 )

### ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	演習問題の作問意図を指摘できる。
2	演習問題の関連知識を説明できる。
3	正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

### ・講義場所

東1-C講義室

### ・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
演習	4/16(火)	5	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	4/17(水)	1	人体発生学分野	木村 英二 准教授	臨床解剖学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	4/17(水)	2	人体発生学分野	木村 英二 准教授	臨床解剖学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	5/16(木)	5	放射線医学講座	鈴木 智大 講師	【特別講義】正常画像について	1,2,3
演習	5/20(月)	2	病理診断学講座	杉本 亮 特任講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	5/20(月)	3	情報伝達医学分野	ハサン アリフ ウル 講師	薬理学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/5(水)	5	感染症学・免疫学分野	吉野 直人 特任准教授	免疫学で履修した内容の演習	1,2,3

演習	6/12(水)	5	病理診断学講座	刑部 光正 特任准教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/18(火)	2	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	微生物学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/19(水)	5	衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師	疫学・環境医学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/25(火)	1	病理診断学講座	佐藤 孝 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/26(水)	2	分子医化学分野	古山 和道 教授	分子生物学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/26(水)	4	医療開発研究部門	阿保 亜紀子 講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2,3
演習	6/26(水)	5	機能病態学分野	中川 涼太 助教	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2,3

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	カラー図解 これならわかる薬理学 第2版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein著、佐藤俊明訳	メディカルサイエンスインターナショナル	2012

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（MCQ）100%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 演習テストを実施し、終了後に問題と解答についての解説を行い、学生自身の理解度を確認できるようにする。</p>
---

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境
------------------------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC画面投影装置	1	問題演習・解説
講義	ノートパソコン	1	問題演習・解説
実習	クリッカー	130	問題演習